

楽しく運動するための環境はどうあればよいか

～子どもの遊びの変化を通して～

学校名 奄美市立朝日幼稚園（鹿児島県）

全校幼児数 69名（男児41名 女児28名）  
（本事例に係る問合せ先）

電話番号 0997（53）2370

メールアドレス asahi-k@city.amami.lg.jp

### 1 研究のねらい

体を使って遊ぶ活動の内容を見直し、工夫・改善を図ることにより、子供たちの運動意欲が喚起され、自ら楽しく体を動かそうとする子供が育つのではないかと。

### 2 研究の概要

外遊びに対する二極化が見られるとともに、興味のない運動には初めから取り組もうとしない現状があった。このような実態を改善するために、多様な運動を含んだ運動プログラムに取り組みせるとともに、「挑戦カード」等の活用により子供の動機づけを高めるよう工夫した。

## ○実践プログラムの紹介

### □ 多様な動きを経験できる遊びの工夫例

#### （1）固定遊具と移動遊具を組み合わせた運動遊び

これまでも運動遊びは取り入れてきたが、「多様な運動に触れさせる」という視点が欠けていた。「回る」「ぶら下がる」

「跳ぶ」といった動きが必ず体験できるように、遊具の配列を工夫した。また、これまでほとんど取り組まなかった鉄棒運動には必ず取り組みせるようにした。

#### （2）「挑戦カード」「がんばり賞」の設定

多様な運動に挑戦する意欲を育てたいと考え、個人カードや賞状を作成した。運動が苦手な園児でも安心して取り組むことができるよう、それぞれの運動の習熟度レベルを4段階に設定して、園児の頑張りを確実に賞賛できるよう工夫した。



## ○幼児の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

- 1 運動能力レベルや基本的な動作の習熟度レベルにより少人数クラスを設定し、園児の動きに目が行き届くようにした。
- 2 個別指導ができるように、指導員派遣事業により指導者数を増やし安全管理の徹底を図った。

## ○成果の意義と今後の課題

### 1 多様な運動プログラムの効果

運動形態に偏りがないようにプログラムを設定し、継続的に実施したことにより、運動能力が全般的に向上した。また仲間と一緒に取り組むことで仲間意識の高揚にもつながった。一方で、個に応じたプログラムの設定方法や、指導形態について課題が残された。

### 2 個人カードや賞状に係る取組

カードや賞状を作成したことにより、園児の頑張りを確実に見届けることができたと共に、保護者からも好評であった。運動が苦手な園児に劣等感を抱かせないよう継続的に改善が必要である。

## ○ 研究内容

### 固定遊具と移動遊具でバランスよく！

多様な運動ができるようコースを設定しました。



### 遊具では培うことができない運動も！

ボールを使った運動も積極的に取り入れました。



### 「挑戦カード」で苦手な運動にもチャレンジ！

鉄棒運動にも積極的に取り組みました。



### 「がんばり賞」で自信ができました！

苦手な園児も取り組める簡単な運動から始めました。

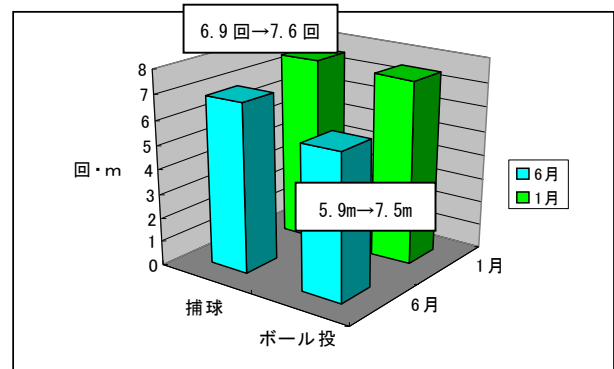


### 継続的な取組の成果が顕在化！

運動能力が全般的に向上し、運動に対する保護者の関心が高まりました。

6月、1月のデータを比較すると、いずれの項目でも有意に向上した。平均運動量は9,128歩→11,760歩に増加し、運動能力テストも6項目全てが高まった。中でも積極的に取り入れたボール運動や鉄棒に関する取組の効果が顕著に現れた。(体支持時間テスト平均：3.3秒→8.4秒)

保護者への意識調査では、本事業を通して63%の家庭が運動・スポーツに関する会話が增え、関心が高まったと回答し、園の取組を肯定的に評価する記述が多く見られた。



全ての子供が運動遊びを楽しむことができるために・・・

個に応じたプログラムづくりについて研究を深めていきます。

運動遊びが苦手だと感じている園児でも楽しむことができるプログラムを作成し、一定の成果を得ることができたが、自発性を引き出す指導、言葉かけに課題を感じるケースがあった。一方、運動が得意な園児の遊びの内容がさらに深まっていくような取組も不十分であった。来年度は市の「運動遊び指導員派遣事業」との連携を図り、全ての園児が積極的に取り組むことができる運動遊びのレパトリーを増やしていきたい。